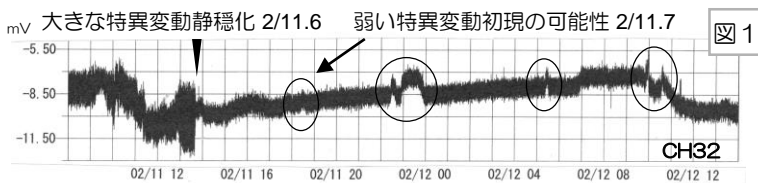


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

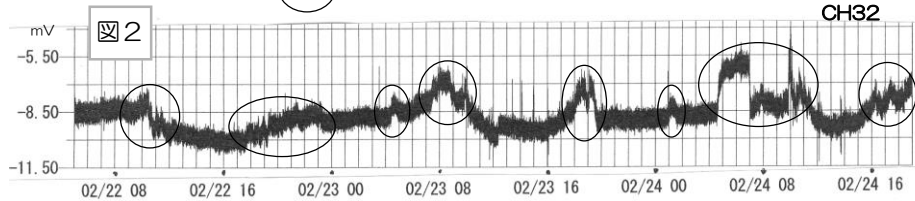
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期継続変動 CH32特異変動継続で初現再検討→2/27±3を示す可能性 Stage-31 のCH32特異変動 本日20時継続→2/28以降を示す 静穏化確認必要



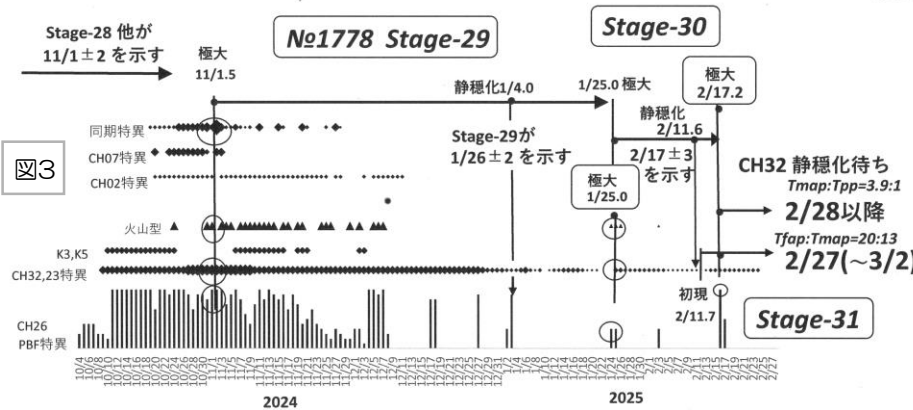
Stage-31のCH32弱い特異変動初現=2/11.7再認識
極大=2/17.2 T_{fap}:T_{map}=20:13 経験則使用
2/27±3 (2/24~3/2) 発生の可能性を示す
Stage-31のCH32特異は2/24午後継続のため2/26以前発生の可能性は考え難い 従って
初現~極大からは→ 2/27~3/2 発生の可能性を示す

◆前号では2/22.5にCH32特異変動静穏化の場合は2/24~27発生の可能性を報告しました。しかし特異変動は断続的に継続。2/26以前発生の可能性は否定。推定領域にお住いの皆様に2/26以前発生の可能性は否定できることを早くお伝えたく、またStage-31の初現再検討結果を報告のため続報させて頂きました。



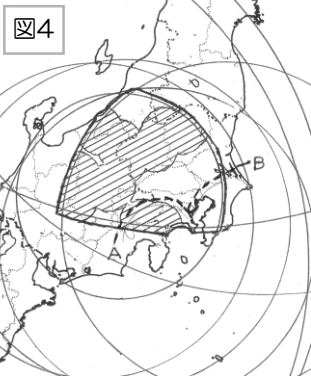
◆図1のとおり、2/11.6に変動値大の特異変動が静穏化した直後から弱い変動が見えます。その後静穏基線が継続したため、初現ではない認識でしたが、図1の2/11.7を初現認識しますと、2/27±3発生の可能性が示唆されます。

◆CH32特異変動は本日午後継続中で静穏化確認が必要。前述を参考にした静穏化時期推定は下記のとおり。静穏化確認後続報予定。



2/27.4発生の場合=2/24.8頃静穏化
2/28.4発生の場合=2/25.5頃静穏化
3/01.4発生の場合=2/26.3頃静穏化
3/02.4発生の場合=2/27.0頃静穏化

※2/24 20時過ぎ変動あるため2/28以降の可能性が考えやすい。



●推定領域：図4の太線領域内=大枠推定領域
図4斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で
約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：2月28日~3月2日の可能性 CH32特異静穏化待ち 静穏化後修正
(※CH32が2/28以降も変動継続の場合や 2/27~3/2 に極大出現の場合は再考予定)

A~B弧線以南の可能性は極めて低い ○推定地震：震源浅い陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。